

事例名

梶井基次郎『檸檬』における、その後の話の創作

校種・学年

高等学校・3年

教科・科目・単元・題材

国語科・文学国語・梶井基次郎『檸檬』

学校名〈任意〉

—

事例報告者氏名〈任意〉

—

機能名（アプリ名）

・共有ノート、提出箱（ロイロノート）

ICT活用のポイント

生徒が創作した『檸檬』の続きの話を、生徒名を伏せてスキャンし、ロイロノート上で共有してお互いの作品を鑑賞させた。以前ならば作品を共有するために教員が原稿を作成して生徒の人数分を印刷して大量の紙を配布していたが、ICTを活用することで共有するのが簡便になった。また、その後の感想などもすぐに提出でき、紙で書かせていた時はその授業時間内にできなければ持ち帰らせて再度提出させていたものが、家で続きを書いてインターネットを活用して提出が可能になった。

活用場面

- ① 『檸檬』の続きを紙で創作して提出後、スキャンされたものをロイロノートの「共有ノート」で一つずつ読んでいく（自分と同じクラスの生徒の作品のみが表示されている）。



- ② 読んだものの中で気に入ったもの、良かったもの、印象に残ったものなどを挙げ、感想とともにロイロノートでカードに入力。カード1枚分にまとめて提出箱に提出。



授業者のコメント・児童生徒の主な反応等

一通り『檸檬』を通読したあと、その後を創作した。本校は京都市内に住んでいる生徒が多いため、作中に出てくる地名に馴染みがあるのでイメージしやすかったようだ。実際に丸善にいった生徒もいた。生徒によってはそういったところで創作しやすかったようだ。また、同じ作品をもとに創作したのにその後の話のバリエーションが人それぞれ異なっており、そのあたりも生徒たちからは面白かったという感想があった。